

研修名 乳児保育・教育

令和元年5月17日(金) 13:00~16:00

講演 「観察を通して行う記録及び評価」

講師 子どもことば研究会 今井 和子氏

1 講演要旨

① 自己主張について

- ・イヤイヤの長泣き

保育者の願いと子どもの願いが食い違っている→子どもの願いを理解できているか？
保育者は切り替えを早く求めてしまいがちだが、子ども自身が気持ちと折り合いをつけるまで時間をかけて待つ
自分で判断し次の行動に移れた→自立のめばえ 気持ちがわかってもらえれば叶わなくても我慢できる。

② 指導計画について

- ・考え方

何が大切か…子どもたちの実践から出てくるものを使って作る

毎日の保育を振り返り反省を重ねる。そこから生まれてくるもの

計画は保育の道しるべ PDCAサイクル

- ・計画の立て方

三歳未満児…一人ひとりの個別計画プラス月のクラスの運営的なものを添える

→2歳児クラスは3歳になったら個別の計画は立てなくても良い。

《見ると観る》目に見えない部分を見ようとする 真実とは？←ねらい

行動は言葉に変わる子どもの言葉…気持ちを言葉にしてあげる 行動を言葉に

奇声…焦って言葉にならない声 注意するだけではNG 真実を代弁する

子どもの発達を支えるための願いをつかむ ねらいは子どもの願い・

ねらい…“～ようになる”をつけてみておかしくなければねらいとして成立している。

内容…活動ではない。“～という経験をさせたい” どういう経験をさせたいか

- ・年間計画は1年の発達の道筋

乳児、幼児共通 4, 5月：混乱期 6~8月：解放期

9~12月：盛り上がり期 1~3月：まとめ期

子どもの姿をしっかりと押さえた上でねらいを立てる。

- ・環境構成

コーナーは保育者が用意してするのではなく、子どもが一番なにをしたいか

応答できる環境 子どもが今一番懂れている環境は何か。

特に3歳未満児は玩具を組み合わせで作っていきける 子どもがやりたい遊びを夢中になっ
て作っていきけるような環境

③ 観察を通して行う記録及び評価

- ・「なぜ？」に問うことで、子どもの魂に近づく心
なぜ記録をとるのか…大事なこと（感動）を忘れないため。その場、その時の言葉。ているだけが保育ではない。理解を深めるため振り返り、追及。
- ・書き方のポイント
子どもの何を見つけ出しているか。視点を定める 1番書きたいことを選ぶ
誰が読んでもその子の姿が浮かんでくるような書き方で。姿だけではなく、保育者はどう関わったか、見方や関わり方も書く。
- ・評価の書き方
結果重視の能力評価はしない。
的確に現状を確認し、課題を見つける。具体的な方針を立てる。
- ・評価のポイント
 - ① 子どもの育ち発見
 - ② 見方関わりのあり方は正しかったか。
 - ③ 保育者のチームワークは
 - ④ 環境構成は内面の育ちの点検と確認



2 感想

計画を立てる上で最も大切なのは、子どもの願いを知ることだった。

特に言葉が未熟な3歳未満児は目に見えない真実を観てお互いの思いが食い違わないようにしっかりと思いを読み取るようにしていきたい。そうして、丁寧に子どもの気持ちを読み取れば、自分のクラスのねらいや課題が自然と見えてきて、子どもの思いも叶える手伝いができるようになっていくと思う。そのためにも日々時間に追われ、こうしなければと心の余裕が無くなってしまいがちだが、気持ちと時間に余裕を持って、保育ができればと思う。また、毎日の保育を振り返り反省し、課題を見つけられる保育者であり続けたいと思った。“行動は言葉に変わる子どもの言葉”という言葉をいつでも胸に止め、子どもの本当の気持ちを理解し、代弁できる保育者でありたいと思う。その子一人ひとりにあったねらいを見つけ出し、より良い計画を立てられるように子どもの姿を観察していきたい。また、評価、反省、お便り帳などの文章を書くときもダラダラと書いてしまうのではなく、何を伝えたいか視点を定め、誰が読んでもその姿が浮かんでくる書き方、具体的にかつ的確に伝えられるよう意識して、保育をしていきたいと思う。

子どもの願いを理解する事が一番大切で、保育者の幸せであるという当たり前のことを忘れてしまっていたな。と感じた機会となり、日々の保育を見直したいと思えた。

(記録 大住保育園 藤林 歩)